



戸塚区制 80周年記念誌

こころ豊かにつながる笑顔
歴史と未来のまち とつか



戸塚区制 80周年記念事業実行委員会



戸塚区制 80周年記念誌

こころ豊かに つながる笑顔
歴史と未来のまち とつか



ごあいさつ 発刊にあたって



実行委員会会長 あいざわ みのる
相澤 稔

戸塚区は平成31年4月1日で区制80周年を迎えます。平成29年11月に戸塚区制80周年記念事業実行委員会が設置されてから、これまで、多くの記念事業をたくさんの方の多大なるご協力により実施できたことについて、厚くお礼申し上げます。たくさんの方にご協力いただいて区内のいろいろな場面で掲げられたのぼり旗やポスター、そして80周年を記念して企画されているさまざまなイベントは、いつまでも、多くの方の思い出に残っていくことでしょう。

これらの思い出とともに、多くの方の思いの詰まったこの記念誌が、これまでの80年間を振り返り、さらにこれからの輝く未来へと思いを馳せるとともに、手に取った皆様の戸塚への思いをさらに強くしていくものになれば、これに過ぎる喜びはありません。

最後に、記念事業の実施にご協賛いただきました皆様方にお礼を申し上げます、ご挨拶といたします。



戸塚区長 たぞう ゆきの
田雑 由紀乃

戸塚区制80周年を記念し、このたび「歴史と未来のまち とつか」をテーマに記念誌が刊行され、また刊行にあたり多くの方にご尽力いただいたことに厚くお礼申し上げます。

80年前、鎌倉郡の一部が横浜市に編入されて誕生した戸塚区は、昔から交通の要衝や宿場町として栄え、歴史を刻んできました。現在も歴史の趣きを色濃く残す戸塚は、豊かな自然に恵まれ、文化・スポーツ・おいしいもの・ものづくりなど数えきれない魅力にあふれたまちです。この記念誌にも、現在戸塚にお住まいの方、以前戸塚に住んでいた方、そして老舗のみなさんなど、これまでの戸塚を見つめてこられた、たくさんの方がそれぞれ感じる、戸塚の魅力が詰まっています。区制80周年をきっかけに、戸塚を改めて知り、そして戸塚をもっともっと好きになっていただければ、この上なく嬉しく思います。

未来を担う子どもたちにも、「これからもずっと、ここに住みたいな」と思えるような戸塚区を、今後も戸塚にかかわるさまざまな方と一緒に作ってまいります。たくさんの方がつながって、みんなに笑顔あふれるまちとなりますようご支援、ご協力をよろしく願います。

目次

- P.2 ごあいさつ 発刊にあたって
- P.3 目次
- P.4-7 戸塚の著名人インタビュー
- P.8-9 戸塚区の概要

第1部 ころ豊かに ～とつかの思い出～

- P.10-31 地域の思い出・エピソード
- P.32-33 戸塚の富士山
- P.34-41 戸塚の老舗

第2部 つながる笑顔

- P.42-45 とつかの笑顔大集合!

第3部 未来に向けて進もう! みんなのこれから

- P.46-47 こどもメッセージ & フォトモザイクアート

第4部 年表・名簿・取組

- P.48-49 戸塚区略年表
- P.50-51 戸塚区制80周年記念事業実行委員会名簿
- P.52-53 戸塚区制80周年記念事業にご協賛いただいた皆さま
- P.54-55 戸塚区制80周年を記念していろいろな取組を行いました!

戸塚の著名人インタビュー

中村俊輔

プロサッカー選手

shunsuke nakamura



Profile

戸塚区出身
市立深谷小・中学校
桐光学園高等学校 卒業
横浜マリノス(現:横浜F・マリノス)を経て
現在はジュビロ磐田に在籍

僕が育った深谷
キラキラしたところに住んでるなって
思っていました

戸塚区深谷町で育ちました。今でも小さい頃の話はよく覚えてますよ。特に印象に残っているのは、何と言ってもやっぱり「横浜ドリームランド」ですね。潜水艦も乗ったし、ゴロンって動く観覧車とか。あと、「シャトルループ」っていう宙返りするジェットコースターも乗りましたね。「ハイハイおじさん」っていう名物おじさんもいて、おじさんのかけ声に合わせて歌ってたなあ。

子どもの頃はドリームランドが日本で一番大きい遊園地だと思っていました。夏はプール、冬はスケート、他にもボウリングとかゲームセンターでも遊べて、

なんて楽しいところに住んでるんだらうって。当時の戸塚に、エンパイアホテル(現在は横浜薬科大学図書館棟)みたいな横浜のランドマークになる建物があったことも誇らしかったし、ドリームハイツにたくさん友達もいて、なんていうか、最新の場所っていうか、楽しくてキラキラしたところに住んでるんだなって思っていました。



サッカーのルーツは戸塚

ドリームランド近くの「^{みその}深園幼稚園」という幼稚園に通っていて、そこでサッカーを始めたのが僕のサッカーとの出会いですね。もともとは幼稚園の体操クラブに入っていたんですが、そこで先生がサッカーを教えてくれて、体操クラブのメンバーで大会に出てみよう!って出場したら、なんと優勝してしまっ。それが僕や兄の通っていた「横浜深園サッカークラブ」の始まりです。

幼稚園を卒園して深谷小学校に通い出してから、幼稚園のグラウンドに通って練習していました。幼稚園の狭いグラウンドだったからこそ、ボールをコントロールする技術が身についたのかもしれないし、キャプテンになって、自分がボールに向かうんじゃなくて、「他のメンバーにうまく動いてもらってチームが勝てるように考える」という経験が最初にできたのも戸塚。もちろん、中学、高校、プロチームに入ってからもいろいろな経験はしているけれど、戸塚は自分にとってサッカーのルーツとなる大事な場所ですね。

自分に向き合うこと、そして自分で考える
大切さを若者たちに伝えたい

高校2年生の頃から、サッカーノートを書き続けています。絵を描いて自分のプレーを振り返ることもあつし、自分の思いを文字にして書き連ねていくことも。例えば、試合で負けちゃった日なんかは「あー負けちゃったな。まあ、こんなこともあるか」って思いたくないし、自分の現状に満足したくない。どうすれば、もっと良いプレーができるのかをいつも考えたいんです。ノートに書くことで自分を客観的に見ることができると、そうすることで、「何をクリアしなくちゃいけないのか」という課題が見えてきたり、昔のノートを読み返して「あの時はこんな風に思っていたんだな」って振り返ることもできる。

誰でもどんなに頑張ってもうまくいかないことや壁に当たることはあると思うけれど、生きていけば山があつたり谷があつたりするのは当たり前。大事なものは、谷に落ちた時にどれだけ自分と向き合えるか。足掻いたり、もがいたりせず、いったんその状況を受け入れること。考えるのはそれから。力まないで力が抜けた時、そんな時にはきっと、良い出会いがあつたりチャンスが巡ってくるはず。これからを担う若者たちにも、まずは自分に向き合って、そして、それからどうすればよいのか、自分で考えられるステキな人になってほしいと思います。



田雑区長と…

瀬川 晶司

プロ棋士
shoji segawa

Profile

横浜市出身。戸塚区在住。
市立日限山中学校
県立舞岡高等学校 卒業

幼いころからプロ棋士になることを夢見ていました。プロ棋士になるためには、奨励会に在籍し26歳までに四段に昇段しなければならぬのですが、夢かなわず奨励会を退会し、一時はプロ棋士への道を諦めざるを得ませんでした。

サラリーマンとして仕事をしながらのアマチュア時代は、仕事の息抜きとして将棋を楽しんでいましたが、「将棋が好きだ」という強い気持ちと、後押ししてくれる方々のおかげでプロ棋士になることができました。好きなことを職業にできてとても幸運だと思っています。

将棋に出会ってからこれまで、楽しいことも辛いこともたくさんありましたが、小学校の時に将棋を勧めてくれた担任の先生や、ライバル、親友との出会い、そういったさ



まざまな出会いがあって今の自分があると思っています。誰にでも普段は気付かないけれど温かく見守ってくれている人がいて、皆さんの今があるのではないのでしょうか。

小さなころからずっと、戸塚は私にとって身近な場所です。買い物をしたり、学校に通ったり、今も戸塚区に住んでいます。

奨励会退会後の一年間は、戸塚図書館に足繁く通って、色々な本を読みました。プロ入りができず整理のつかない気持ちを、静かに受け止めてくれたのが戸塚図書館でした。手当たり次第に色々なジャンルの本を読み、人生で一番本を読んだ一年だったと思います。

そんな自分の半生を綴った著書「泣き虫しよったんの奇跡」が映画化され、昨年(平成30年(2018年))

秋に公開されました。何事も思いを持って一生懸命やってみることでチャンスが開かれること、挑戦することに「遅い」ことはないということがテーマの映画で、お子さんから大人まで色々な世代の方に見ていただきました。皆さんも諦めずに夢に向かって挑戦してくれるとうれしいです。



©2018「泣き虫しよったんの奇跡」制作委員会

ダ・カーポ

フォーク・デュオ
da capo

Profile

戸塚区在住。
1973年デビュー、ヒット曲に「結婚するって本当ですか」、「野に咲く花のように」。
2002年横浜文化賞 文化・芸術奨励賞受賞

原点は踏み台ステージと物干し台

私(政敏)は、戸塚小学校のすぐ近くに住んでいて、旭町通商店街のにぎわいを肌で感じながら育ちました。父が音楽好きで、毎晩夕飯後にタンスの前に踏み台を置き、6人きょうだい順番にあがって歌っていましたが、この踏み台ステージでの楽しい記憶が私の音楽の原点です。広子は栃木県出身。小さな頃から歌うことが好きで、中学生頃からフォークギターを始め、自作の曲を物干し台で歌っていたそうです。

音大に進んだ兄の影響もあり、私も中学生頃からフォークギターで歌ったり、ピアノで曲を作ったり、将来は音楽をやりたいと漠然と考えていました。高校卒業後、保土ヶ谷区西谷での音楽サークルの活動を通じて、広子と私は出会いました。



やがて音楽活動に専念するようになった私たちがデビューする時に、「初心を忘れないように」との思いを込めて、「ダ・カーポ」(「最初に戻る」という意味の演奏記号)をグループ名にしました。自然体で歌ってきて、昨年(平成30年(2018年))でデビュー45周年。初心を忘れずに同じスタイルを続けてこれたのは、皆さんのおかげと感謝しています。

音楽の力を伝えていきたい

東日本大震災以降、毎年石巻市におがつ雄勝のイベントなどに参加しています。最初は被災した皆さんを前に歌うことに悩みましたが、いつもと同じように普通に歌うことで力になることができると思うようになりました。音楽を通じて、普通のありがたさを感じたいと思います。

かつて広子のリハビリ治療のため、半年ほど活動を休止したことがありますが、苦しいときほど音楽による癒しがどれほど役に立つか、深く理解しました。音楽にはいつも大切な役目があり、歌うことでその力を皆さんに伝えていきたいと思っています。

地元への思い

横浜で生まれ育ったダ・カーポだからこそ、地元から応援していただくのが一番うれしいです。事務所も区内にあり、戸塚にはとても愛着を感じています。かつて宿場町だった戸塚は古き良き面影を残し、自然も多く、戸塚で生まれ育った私はもちろん、広子もふるさとのように感じています。普段から買い物をしたり、旧東海道を歩いたり、近所の皆さんとも顔見知りです。若い世代の皆さんにもぜひ戸塚のよさを知ってもらい、後世に引き継いでいってほしいと思います。

私たちの今があるのは、いろいろ経験して音楽の道を見つけたからです。未来を担う子どもたちにも、ぜひいろいろなことを経験し、自分の夢を見つけてほしいですね。(政敏さん談)



戸塚区の概要

～戸塚区の成り立ち～

「戸塚」の地名の由来には「富塚」「十塚」「豊塚」という複数の説があります。また、富塚八幡宮(戸塚町)の縁起には「平安時代の後期、戸塚修六郎友晴およびその子孫がこの地の開発に努力したので「戸塚」と呼ぶようになった」と記されています。

鎌倉時代には鎌倉の玄関口として重要な役割を果たし、江戸時代には東海道の宿場町として栄えました。明治4年(1871年)廃藩置県により神奈川県になると鎌倉郡に編入、明治20年(1887年)には横浜・国府津間の鉄道の開通により戸塚駅が設けられ、駅を中心として次第に発展しました。

昭和14年(1939年)、鎌倉郡内の1町7村がまとまって横浜市に編入、戸塚区が誕生しました。昭和30年(1955年)代以降は、内陸工業地域を結ぶ道路網の整備、根岸線の大船までの延伸などと歩調を合わせるように、住宅団地の建設、宅地開発が進み、人口が急増しました。

こうして戸塚区は市内最大の面積、人口を有するに至りましたが、行政区再編により昭和44年(1969年)10月に瀬谷区が、昭和61年(1986年)11月には泉区と栄区が分区され、現在に至っています。

戸塚区の分区の変遷



昭和14年(1939年)
鎌倉郡から横浜市に編入



昭和44年(1969年)10月
瀬谷区が分区



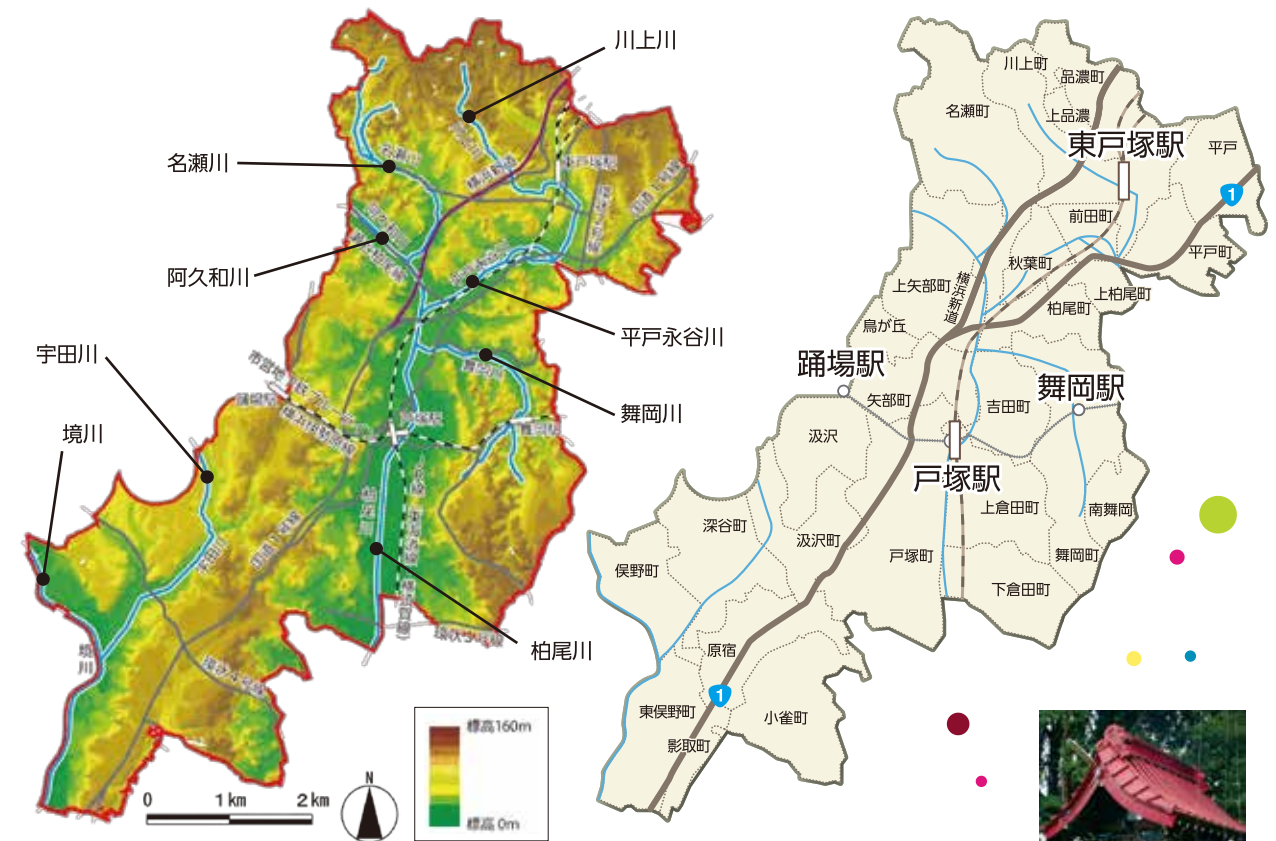
昭和61年(1986年)11月
泉区・栄区が分区

現在の戸塚区範囲

～豊かな自然・歴史・賑わいのあるまち～

区内には、柏尾川とその支流である阿久和川や舞岡川、境川とその支流である宇田川など多くの河川があり、その周辺は豊かな自然に恵まれています。

旧東海道や戸塚宿に代表される歴史と、魅力あふれるまちがにぎわっています。



阿久和川のカワウとうなぎ



東戸塚 イルミネーション



舞岡公園



おやまみち
大山道

戸塚区のプロフィール

戸塚区は横浜市の南西部に位置し、南北に長く、北は旭区・保土ヶ谷区の2区に、東は南区・港南区の2区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れています。

面積：35.70km²
人口：279,219人
※2019年1月1日現在

第1部

こころ豊かに〜とつかの思い出〜 地域の思い出・エピソード

区民の皆さんから寄せられた写真や戸塚にまつわる歴史、物語をご紹介します。

戸塚駅周辺エリア

戸塚駅

戸塚駅は明治20年(1887年)に東海道線(横浜～国府津間)開通と同時に開業。その後、横須賀線も戸塚駅に停車するようになりました。昭和5年(1930年)の横須賀線電化に伴い、東海道線は停車しなくなり、その後、半世紀にわたり戸塚駅は東海道線が停車しない駅でした。

開業当初は西口(トッカーナ方面)のみでしたが、昭和12年(1937年)に戸塚競馬場の観戦客のために東口が設けられ、当時は「裏駅」と呼ばれていました。



戸塚駅(明治20年(1887年)頃)
提供:坂本写真



戸塚駅東口(昭和30年代(1955～1964年)頃)
提供:坂本写真



戸塚駅西口(昭和44年(1969年))
提供:坂本写真



早春の戸塚駅上りプラットフォーム(昭和55年(1980年)頃)
出典:40万人の40年史

戸塚区の人口が飛躍的に増えたことで、朝のラッシュ時の横須賀線は定員の約3倍もの超満員でした。

大踏切とアンダーパス

平成27年(2015年)3月に開通した戸塚駅北側のアンダーパス。その前にあった大踏切は、ピーク時には1時間のうち57分が遮断されている「開かずの踏切」で、街の東西の往来がとても不便でした。この「開かずの踏切」を解消するため、昭和37年(1962年)から戸塚駅周辺の整備が進められました。そして50年以上を経て戸塚アンダーパスが開通し、街が生まれ変わりました。



大踏切の様子(昭和12年(1937年)頃) / 提供:坂本写真



開かずの踏切(平成23年(2011年)) / 提供:中野泰雄さん



工事中のアンダーパス東側(平成21年(2009年))
出典:戸塚駅前地区中央土地区画整理事業事業誌



工事中のアンダーパスJR交差部(平成23年(2011年))
出典:戸塚駅前地区中央土地区画整理事業事業誌

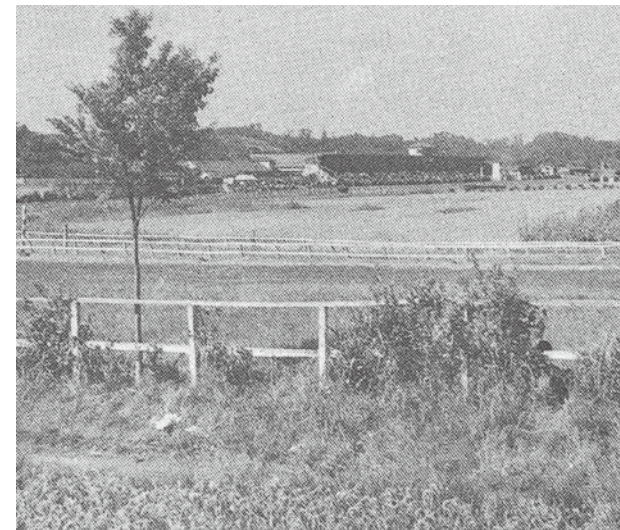


アンダーパス開通(平成27年(2015年)3月25日)
提供:中野泰雄さん

競馬場

昭和8年(1933年)、吉田町(現在の東戸塚小学校の辺り)に競馬場ができました。戦時中は軍用馬訓練所になり、後に汲沢町(現在の戸塚高校の辺り)に移転しました。戦後、レースが再開され、万馬券が出るなど盛り上がりました。

昭和17年(1942年)に汲沢に移転した戸塚競馬場ですが、交通の便のよい川崎に新しい競馬場(川崎競馬場)ができたことにより、戸塚競馬場は昭和25年(1950年)10月の開催を最後にその歴史に幕を下ろすことになりました。



汲沢時代の戸塚競馬場(昭和17年(1942年)) / 提供:坂本写真



吉田町にあった戸塚競馬場(昭和8年(1933年)) / 提供:坂本写真

PX 倉庫への引込線

終戦直後、吉田町(現在の日立製作所の辺り)の一部が接収されて進駐軍のPX(アメリカ軍施設内の売店)の倉庫が建てられました。倉庫への物資搬入のための引込線が戸塚駅そばから今の東戸塚小学校辺りまで伸びていたことを覚えています。今でも引込線の一部が残っており、当時の様子がしのべられます。

(お話:田中一好さん)



手前が引込線 / 提供:田中一好さん



真っ直ぐに伸びた通路は、かつての引込線の名残が…
戸塚駅東口の駐輪場 / 提供:田中一好さん

戸塚の映画館

昭和20年代~昭和30年代頃の戸塚には映画館がありました。「戸塚劇場」で「笛吹き童子」など多くの子ども映画を見ました。当時は東映と松竹の2つの映画館がありました。
(お話:森本剛志さん)



旭町通商店街(戦後) / 提供:坂本写真

こんな戸塚駅も

平成23年(2011年)東日本大震災のあった翌日、電車も止まり、昼間にもかかわらず誰もいない駅。普段は見られない景色に思わずシャッターをきりました。
(お話:中野泰雄さん)



提供:中野泰雄さん

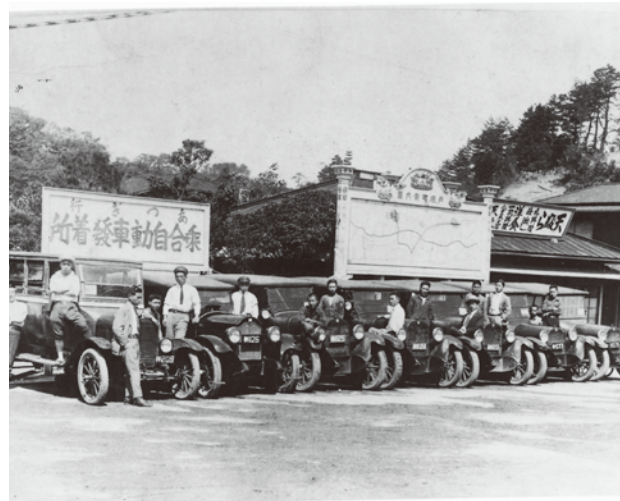
コラム

戸塚町の山

昭和30年(1955年)頃までは、戸塚町にある新沢池公園あたりは里山でした。

ワンマン道路ができる前は天王様(八坂神社)の道を歩いている人が見えていました。山にはウサギがいて、山百合もとてもきれいでした。自然薯掘りをしたり、正月飾り用の松の木も採っていました。小川にはドジョウ、小魚がたくさんいて、大雨の後などは自分の家の池にウナギが上がってきたこともありました。
(お話:宮坂研一さん)

アーカイブ



戸塚町にあった乗合自動車(路線バス)発着所 (昭和初期) / 提供: 神奈川中央交通株式会社



戸塚競馬場で行われていた牛の品評会 (昭和30年(1955年)頃) / 提供: 坂本写真



ファッションショー (昭和29年(1954年)) / 提供: 森本剛志さん



戸塚小学校運動会 (昭和34年(1959年)) / 提供: 青木栄治さん



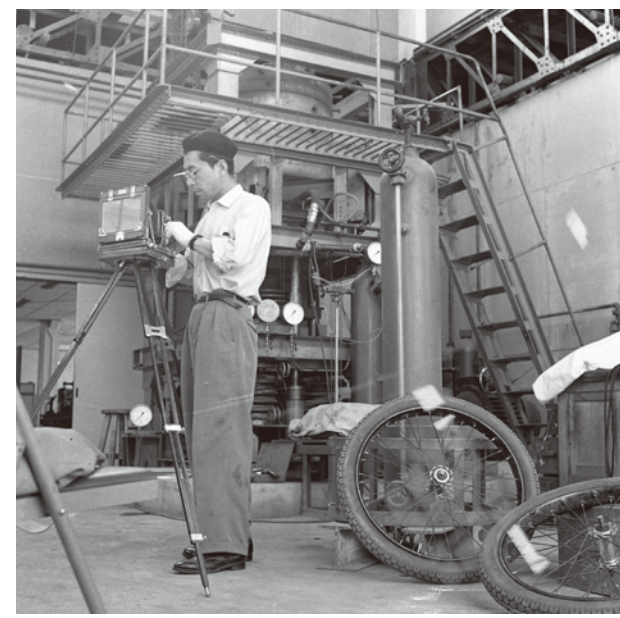
商店街でのダンス(年代不詳) / 提供: 坂本写真



元吉倉橋(年代不詳) / 提供: 坂本写真



街中を走るサイドカー(年代不詳) / 提供: 坂本写真



坂本写真 撮影風景(年代不詳) / 提供: 坂本写真



吉田町のおまつり(年代不詳) / 提供: 坂本写真



戸塚区連合飲食業協同組合の慈善大相撲戸塚場所 (年代不詳) / 提供: 坂本写真



戸塚駅東口の再開発(昭和57年(1982年))



戸塚駅西口再開発が始まる(平成19年(2007年))
提供: 梁川春雄さん



戸塚駅東口ペDESTリアンデッキから望む建設中の区役所(左)とトッカーナ(右)
(平成24年(2012年)) / 提供: 中野泰雄さん



戸塚大踏切デッキ(平成26年(2014年)供用開始)
提供: 植原文子さん



提供: 木下良三さん

横浜市指定無形民俗文化財

江戸時代から続く
八坂神社の「お札まき」

毎年
7月14日に
行われています



毎年家族そろって出かけ、
縁日で欲しいものを買いました。

女装した男子の踊手が音頭にあわせて唄を歌い、翁面をつけた大幣を持つ人を先頭に町内を歩き、五色のお札をウチワで煽って天に舞わせます。

(お話: 木下良三さん)

戸塚イベント・キャンペーン・レディ

区制50周年(平成元年(1989年))の際、記念行事の盛り上げ役として「戸塚イベント・キャンペーン・レディ(戸塚レディ)」の一般公募に応募して選ばれました。夏服、冬服の制服があり、同じく50周年記念で作られたとつかのシンボルマークのペンダントも副賞でいただきました。いろいろなイベントに参加して、皆で盛り上げたことを思い出します。

(お話: 古賀理恵さん)



戸塚レディ



広報よこはま戸塚区版 昭和63年(1988年)5月号

旧東海道と戸塚宿周辺

綿屋と鎌倉ハム

戸塚宿の入口となる江戸方見付のそばで曾祖父が「綿屋」という旅籠を経営していました。正面横には馬用の水飲み場がある様子がわかります。また、店の中にはピンが置いてあったり、アルファベットの看板があったり、外国人の利用も多かったようです。特に戸塚宿でハム(のちの鎌倉ハム)の製造を始めたイギリス人「ウィリアム・カーティス」さんはよく訪れ、この綿屋で働いていた「かね」と夫婦になりました。

(お話:鈴木武道さん)

ハム製造が下柏尾村(柏尾町)で始まったのは明治10年代(1877~1886年)。英船コック長のウィリアム・カーティスは外国人専門ホテルを経営し、その裏手に200頭ばかりの牛や豚を飼いながら、ハムの加工場をつくりました。

その後、柏尾出身の斎藤角次、益田直蔵がハムの製法を習得し、日本人による本格的なハム製造が始まりました。



提供:鈴木武道さん



ウィリアム・カーティス
出典:戸塚今昔



「かね」さん
出典:戸塚今昔



斎藤商会の工場の様子
(明治40年(1907年)) / 出典:戸塚今昔

大名行列

平成元年(1989年)、区制50周年の年に江戸方見付跡のあたりから本陣跡(現在の戸塚消防署の辺り)まで、大名行列が盛大にくり広げられました。大船の撮影所から衣装を借りて、本格的な大名行列でした。

(お話:山内悟さん)



提供:山内悟さん

コラム

大名行列昔むかしの「へえ そうだったんだ」のお話

宿場と宿場間の移動区間は、参列している者みんな汚れてボロボロの衣服を着ていますが、宿場近くになると綺麗な着物に着替えて宿場に入ったそうです。

(お話:鈴木武道さん)



※当行事は箱根町・箱根町観光協会・箱根大名行列保存会のご協力により盛大に行われました

松並木

浮世絵に描かれている松並木はかつて3kmほどありましたが、車の排気ガスにより、どんどん枯れてしまい、当時から残っている最後の1本の松も枯れて、ついに昭和53年(1978年)に切り倒されました。その時の様子は当時のニュース番組でも紹介されました。(お話:染川春雄さん)

コラム

松並木の最後の1本

松の直径:90センチ
松の高さ:約30メートル



根回り280センチ
直径90センチ
提供:染川春雄さん

お軽勘平と「お軽そば」

子どものころ東京から引越してきて一番最初に「戸塚」を意識したのは、国道1号線の松並木の景色が「歌舞伎仮名手本忠臣蔵」の「お軽勘平」が描かれている浮世絵の絵と同じだったことです。国道そばにあった食堂に「お軽そば」というメニューがありました。

(お話:佐々木峰子さん)



歌川豊国
「東海道五十三次の内 戸塚駅 早野勘平」
横浜市中央図書館所蔵

コラム

トヅカ?トツカ?

昔は地元の人々は戸塚を「トヅカ」と発音していました。いつのころからか「トツカ」に。(お話:宮坂研一さん)

旧東海道と大橋



吉田町にある大橋と青い空 / 提供:中野泰雄さん



浮世絵に描かれている大橋(戸塚駅地下コンコース壁面)

東戸塚駅周辺エリア

東戸塚駅

東戸塚駅周辺は、もともと田畑や林が広がる静かな地域でした。
発展のきっかけは昭和55年(1980年)の東戸塚駅の開業です。

明治20年(1887年)、保土ヶ谷駅と戸塚駅が開業した直後から、「中間に新駅を」との声があがり、住民運動が起こりました。

その後、大正12年(1923年)には運動が実り「武蔵駅」という駅名まで決定しましたが、国会審議中に発生した関東大震災の影響で立ち消えになってしまい、その後の運動も戦争のため中断してしまいました。
昭和40年(1965年)に運動が再燃し、多くの人たちの署名や陳情書が、市を通して国鉄総裁に提出されて、100年近くにもおよぶ周辺住民の悲願であった東戸塚駅の設置が実現しました。



開業当時(昭和55年(1980年)) / 提供: 染川春雄さん



東戸塚駅東口(昭和56年(1981年)頃) / 提供: 佐藤恭弘さん



東戸塚駅前(昭和60年(1985年)頃)

環状線

片側3車線になる環状2号線の計画用地は、とても広大でした。
(お話: 染川春雄さん)



(昭和52年(1977年)) / 提供: 染川春雄さん



(平成24年(2012年)) / 提供: 染川春雄さん

歴史を刻む鉄道トンネル

JR東戸塚駅の保土ヶ谷寄りにトンネルがあります。
清水谷戸トンネルしみずやとといって、向かって左側の上り線側は、明治20年(1887年)の戸塚駅から保土ヶ谷駅の開通同時に建設され、現役で利用されている日本最古の鉄道トンネルです。右側の下り線側も明治31年(1898年)の建設で、いずれも100年以上の歴史があります。



新しいまちの中に…

昔このエリアは「長作地区」と呼ばれていました。
母家の中には牛や馬がいたそうです。
向こうに見えるのは、川上第一団地と横浜新道です。
(お話: 常盤欣二さん)



(年代不詳) / 提供: 常盤欣二さん

アーカイブ



昭和39年(1964年)の平戸/提供:齋藤晃さん



開業間近の東戸塚駅前広場(昭和55年(1980年))



東戸塚駅開業(昭和55年(1980年))



開業記念切符購入の列(昭和55年(1980年))



東戸塚駅前の冬のイルミネーション



肥田牧場(品濃町)の牛たち

空撮で見る
戸塚①



提供:NEXCO東日本

横浜ドリームランド

昭和39年(1964年)に開園し、長い間区民に親しまれた「横浜ドリームランド」。
 惜しまれつつも平成14年(2002年)に閉園しました。
 現在は、敷地の東側は横浜薬科大学キャンパスになり、
 ホテルエンパイアの建物はそのまま活用されています。



畑が広がっていたドリームランド建設前の丘(年代不詳)



右側には建設中のドリームハイツ(年代不詳)
 出典:「わたしたちのまち」深谷台小学校



昭和52年(1977年) / 提供:横浜市史資料室

モノレール

大船駅から横浜ドリームランドを結ぶ「ドリームモノレール」が昭和41年(1966年)に完成し、
 当時は県下最長の5.6kmを8分で運行していましたが、
 残念ながら昭和42年(1967年)にわずか1年5か月で運行中止になりました。



昭和41年(1966年)頃 / 提供:田中一好さん

戸塚と川

柏尾川

昭和初期の柏尾川にはボート乗り場がありました。
 時には川で舟遊びをする様子も見られました。
 (お話:山口道子さん)



昭和初期の柏尾川 / 提供:山口道子さん



戸塚の街が桜色に… / 提供:中野泰雄さん

阿久和川

区内の川にはウナギが生息しています。阿久和川で
 カワウとウナギの格闘に出会いました。決着は…
 ウナギが大きすぎてカワウが諦めました。
 (お話:長嶋春夫さん)



提供:長嶋春夫さん



川がとてもきれいな水鏡に… / 提供:保田輝子さん



柏尾川から望む建設中の区役所(平成24年(2012年))
 提供:中野泰雄さん

平戸永谷川



平戸永谷川のカワセミ / 提供:長嶋春夫さん

名瀬の養蚕

開港後の横浜の主な輸出品であった生糸。各地の農村で生糸が生産されていましたが、鎌倉郡中川村(現在の上矢部、名瀬の辺り)でも養蚕が盛んでした。写真は「屑繭整理講習会」のもの。生糸を取るときに出る屑物を利用して製品にしていたようです。



昭和3年(1928年) / 提供: 門倉麻紀子さん

戸塚の煙突

戸塚のランドマークでもあった大きなブリヂストンの煙突は今もありませんが、煙突に書いてある会社名の変遷は時代の移り変わりを感させました。



「ブリヂストンタイヤ株式会社」
(昭和13年(1938年))



「日本ゴム株式会社横浜工場」
(昭和17年(1942年))
戦争激化に伴い日本語の社名表記に…



「BRIDGESTONE」
(平成元年(1989年))

提供: 株式会社ブリヂストン

炬火リレー

「かながわゆめ国体」(平成10年(1998年)開催)の炬火リレーが戸塚を駆け抜けました。



提供: 株式会社ブリヂストン



提供: 株式会社ブリヂストン

団地の開発

昭和46年(1971年)、上倉田町の小田急団地の開発が始まりました。現在の明治学院大学の場所にあった山からの景色はとても広大でした。
(お話: 横山善実さん)



提供: 横山善実さん

大わらじ

下倉田町の^{みなみやと}南谷では、農業の無事と往来する人々の旅の安全を祈願して、「わらじ」を奉納する習わしがありました。大正時代の頃から“大わらじ”を奉納するようになり、現在も3年に一度新しいものに掛け替えています。



猫伝説

地下鉄踊場駅周辺に伝わる猫伝説を知っていますか。とつかに昔から伝わる「トラ」という猫のお話です。その猫伝説に因んで、踊場駅はいろいろなところで猫に出会えます。「関東の駅100選」にも選ばれています。



「猫の踊場伝説」(「とつかの歴史ろまん」より)



戸塚に大雪

小さい頃、たくさん積もった雪に大喜び！
原宿にある国立横浜病院(現在の横浜医療センター)近くでスキーをしました！

(お話:高橋理愛さん)



(昭和53年(1978年)) / 提供:高橋理愛さん

アーカイブ



大山道にて(昭和51年(1976年)) / 提供:横浜市史資料室



日立工場の様子(年代不詳) / 提供:坂本写真



横浜～平塚間の急行バスがワンマン道路料金所を通過(昭和33年(1958年)) / 提供:神奈川中央交通株式会社



不動坂付近(昭和37年(1962年)頃) / 提供:株式会社ブリヂストン



俣野別邸



まさかりが淵



東俣野から…



舞岡公園



上矢部ふれあいの樹林

空撮で見る
戸塚②



提供：NEXCO東日本

戸塚の富士山

とっておき!

区内のいろいろな場所から見える富士山。それぞれの表情を見せてくれます。



秋葉町 秋葉台公園



汲沢町



平戸町



柏尾町(区境) 下永谷市民の森



平戸町



汲沢町 通信隊東側交差点



汲沢町 通信隊東側交差点



東俣野町 東俣野中央公園



下倉田町



下倉田町



吉田町



原宿三丁目 原宿八幡山公園沿いの道



汲沢五丁目



舞岡町 舞岡ふるさとの森(市民の森)



吉田町 大日谷公園



上矢部町



吉田町 八幡山



上矢部町



名瀬町 名瀬町第一公園



吉田町



下倉田町



小雀町



戸塚町



汲沢町 五霊神社周辺

戸塚の老舗 とつかにある老舗をご紹介します

生駒植木株式会社 小雀町 1805

創業 大正8年(1919年)

自社圃場での植木の生産販売や、造園工事業を主に営んでいます。創業者である曾祖父が、農業の傍ら自宅前の畑でツツジの生産を始め、緑化業に携わることになりました。当時は、鎌倉や逗子、葉山など、大きな庭を有する別荘で庭木の需要が多かったことと、

鎌倉方面の土壌が植木生産に適していなかったことなどから、この地が植木生産地として発展していったそうです。その後、自社で生産した植物材料を使った造園工事業を行うようになっていきました。植木は種や苗を植えてから出荷するまでの生産スパンが長く、早くて3年、長いものでは100年以上かかります。この生産スパンの特殊性が事業を長く続けてこられた一因でもあると思います。先代が育ててきた植木という財産を受け継ぎ、次の世代へ繋いでいかなければという使命感で事業を継続しています。植木も時代とともに、求められる種類が変化します。また、日本ではあまり需要がない種類でも海外では重宝されたりもします。

最近では、環境に配慮し、できる限り廃材を出さないように、剪定枝や草などをチップ化し、肥料として再利用できる施設も整備しました。事業内容は時代に沿って少しずつ変化していますが、これからも横浜の緑を守りながら未来につなげていこうと思っています。

現在、横浜市指定管理者として、小菅ヶ谷北公園(栄区)の管理をしています。公園では里山を再生したり、米づくり、お茶摘み体験などいろいろ創意工夫して、皆さんに自然の大切さを知ってもらうための仕掛けづくりをしています。たけのこ掘りのイベントは、いつもあつという間に定員いっぱいになります。また、小学生を対象とした「緑育」や中学生の「職業体験」にも取り組んでいます。緑や樹木がどんなに大切なものであるかを知ってもらい、これからの「戸塚の緑」を守ってほしいと思います。



4代目 代表取締役 生駒 順さん



本業及びその他の活動を通じ、環境保全や地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業として認められ、横浜市から「横浜型地域貢献企業」に認定されました。



生駒造園土木株式会社 小雀町 1956-1

創業 昭和39年(1964年)

創業 大正8年(1919年)の生駒植木から造園請負業として分かれて昭和39年(1964年)に創立

祖父の代に「生駒植木」から造園請負業として分かれて始めました。創業以来、本業一筋でやってきました。大きな木を移植するときなど、今でも人力に頼ることがあります。東俣野町にある「俣野別邸庭園」で大きな木を動かしたときは、機械が使えなかったため、昔ながらの技法で人力に頼りました。木を立てたまま移動させる「たて曳き」は、昔からの技術が必要です。そのほか戸塚区内で印象に残っているのは、まさかりが淵(汲沢町)を整備したこと。滝に石を積み上げるために、川(宇田川)の流れを変え、水を止めて工事をしました。この石積みなども、今ではできる職人が少なくなっています。このような昔からの技術は、自分たちの財産でもあると思っています。「造園」は何もない真っ白なキャンパスの上に絵を描いていくように、自分の裁量で景色が変わっていくので大変やり甲斐のある仕事だと思っています。これからは時代の移り変わりに取り残されないように、新しい技術も掘り起こしていかなければなりません。地域密着型の企業として、昔からの伝統や地域との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

「いい人材に恵まれればいい仕事ができる」と女性にとっても働きやすい環境を整え、「よこはまグッドバランス賞」(※)にも認定されています。

※よこはまグッドバランス賞
男女ともに働きやすい職場環境づくりを積極的に進める市内中小事業所に対して横浜市が認定しています。

本業及びその他の活動を通じ、環境保全や地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業として認められ、横浜市から「横浜型地域貢献企業」に認定されました。



4代目 代表取締役 生駒 隆一さん(左)
常務取締役 生駒 武則さん(右)



昭和25年(1950年)頃までは大きな滑車を使って人力で木を運んでいました

井野写真 戸塚町 16-10 ブルーゲートビル101

創業 大正3年(1914年)

大正3年(1914年)、初代にあたる曾祖父が写真館の営業を始めました。

今年で創業105年を迎え、私は5代目になります。

祖父が、写真を現像するための現像液を天秤で計って調整していた姿を覚えています。

父は、川崎の写真館で修業し、写真のセンスを磨いていたようです。

今ではデジタル写真が一般的になりましたが、フィルムの代わりにガラス板を使っていた時代の写真は、引き伸ばしたりすることもなかったため、等身大の姿を映し出した味のある写真でしたね。その後、フィルムに変わってからも、フィルムは高価で一度にたくさんの写真を撮ることができなかったため、ファインダーを覗いた時は、とても集中してピント合わせなどしていました。たくさん撮った中から選ぶ現在の感覚とは180度違いますね。

自宅の2階が広いスタジオになっていて、撮影に使った大量のガラス板がスタジオの端に干してあったのですが、子どもの頃にそこのスタジオで遊び回っていて、干してあったガラス板を割ってしまった、という苦い思い出もあります。

写真館として、およそ一世紀にわたり、戸塚の地で営業を行ってきました。お客様の中には、昔から代々、記念日など節目のときに記念写真を撮り続けている方も多く、時には昔ここで撮った写真を見せてくださったりします。

写真の技術はすっかり変わりましたが、これからもこのようなお客様を大切にしながら、戸塚の地で写真館を続けていきたいと思っています。



出典:「戸塚はこんな街でした」田谷そよ



5代目 井野 辰也さん



昭和30年(1950年)代



兄弟そろって…

紀久薬局 戸塚町 6001-5

創業 江戸時代中後期(詳細不明)

江戸時代に、創業者の紀伊屋久兵衛が、薬や油などで商いを興し、5代目の頃から薬屋をはじめました。明治時代に薬局制度ができ、7代目が戸塚で初めての薬剤師となり「紀久商店」から「紀久薬局」に名前を変えました。

「紀久」は「紀伊屋」の紀と、初代「久兵衛」の久の字が由来です。

戸塚駅周辺は、駅前再開発やアンダーパスの区画整理事業で姿を変え、昔から営業が続いている店舗が少なくなってしまいました。

薬局も時代とともに営業形態も変わってきましたが、処方箋調剤だけでなく医薬品、漢方薬、健康相談など幅広く対応し、地域のお客様に支えられています。

「戸塚の健康とともに」「戸塚の街の薬屋さん」をモットーに、今後も代々引き継いできた「紀久」の名前を後世まで残していきたいと思っています。

【思い出のシーン…】

再開発前の店舗周辺は、車のすれ違いもできないような狭い道路でした。

明治時代の店舗の柱は、関東大震災にも耐えました。



再開発前の旧矢沢通り(右手が紀久薬局)



代表取締役 加藤 真人さん
戸塚町一丁目内会、戸塚区薬剤師会、学校薬剤師など地域のために活躍されています



「紀伊屋」時代の店舗(明治時代)

株式会社 茶碗屋 戸塚町 16-1 トツカーナモール2階

創業 明治2年(1869年)

呉服店として創業してから150年です。その前は、戸塚宿^{はたご}の旅籠でした。「茶碗屋」という屋号についてよく質問されます。伝えによると、もともと尾張出身の陶工であった先祖が、焼き物の技をさらに高めようと水戸に出てきたものの、途中、志を断念し、ここ戸塚宿に辿り着いて始めた旅籠の屋号を「茶碗屋」と命名したとのことです。その後、江戸末期になり、旅籠の役目も終わりに近づいたところに、まず初めに古着を商うようになり、明治2年(1869年)、曾祖父の代で呉服店を始めたそうです。

【思い出のシーン…】

街にあった映画館で、5歳の時にディズニー映画を見ました。そのほか「ゴジラ」や「若大将シリーズ」は好きな映画でした。現在のサクラスの場所にあった「元屋^{もとや}」という商業施設に区内で初めてエスカレーターが設置されたときは、珍しくてよくエスカレーターに乗りに行っていました。再開発前の商店街は活気があふれ、人とのつながりも強く、お祭りのおみこし担ぎも声を掛け合って地域みんなで街を盛り上げていました。開発に伴う立ち退きでだんだんと人手が減少し、おみこし担ぎも少なくなってしまうことがちょっと残念ですが、これからも古い伝統を大切にしながら街を盛り上げていきたいですね。



出典:「戸塚はこんな街でした」田谷そよ



4代目 代表取締役 加藤 亘章さん

夏物大売出しの景品が「たんす1組」
明治41年(1908年)

明治時代のお店の様子

有限会社 豊田屋 戸塚町 16-1 トツカーナモール3階

創業 昭和2年(1927年)

昭和2年(1927年)に祖父が乾物屋として創業しました。もともとは、鎌倉郡豊田村(現在の栄区田谷の辺り)の農家でした。豊田村からこのあたりで来たので「豊田屋」です。父の代から乾物のほかに果物を扱うようになりました。最近までは昔からのお客様のために乾物も置いていました。その後、駅前再開発など時代の流れの中で、これから果物だけで商売を続ける難しさを感じて、自社で作ったケーキも販売するようになりました。果物を得意とするケーキの職人さんに作ってもらっています。高齢の方は意外と果物が好きですが、若年層はやはりケーキ。ケーキを販売するようになってから若いお客様が増えました。ツイッターなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の口コミなどで広がっていています。また、お店での販売だけでなく、接待やお葬式用などの果物専門店ならではの需要も増えています。

戸塚駅西口再開発前にこのあたりにあった600軒ほどの商店も、後継者がいなかったり、他へ移転してしまったりで、今も続けている商店は20軒ほどになってしまいました。それでも父がお店に出ているときなどは、昔から知っている地域の方々が来て声をかけてくださいます。自分も地域の皆さんの顔や名前をよく知っているのも、これからも気軽に声をかけやすい地域密着型のお店として、新しいものを取り入れながらも今までの繋がりも大切に、続けていきたいと思っています。



3代目 石井 正樹さん



昭和39年(1964年)頃



豊田屋の「マスクメロンポード」は「おいしいもの とつがブランド」に認定されています

株式会社 長野工務店 小雀町 1137

創業 大正3年(1914年)

創業者である曾祖父がこの地で生まれて以来、ここを離れることなく、地域を中心とした道路や河川、下水道の整備をしてきました。このあたりは、水田と畑が広がる農業地域で、近くを通る国道1号線も舗装ではなく砂利が敷かれている状態でした。大雨が降ると砂利が崩れてしまい、その都度修復しなければならなかったようです。曾祖父は大正村の村会議員を務めていたため、砂利の納入を役所から依頼されたり、近辺の水田への水引工事などの手配も行い、それをきっかけに道路建設業を生業とする「長野組」を立ち上げました。当時は自宅付近にトロッコの線路があり、早朝からトロッコで砂利を運んでいたそうです。その後、道路だけでなく、河川、橋梁工事にも携わるようになりました。

【思い出のシーン…】

以前は兼業農家でした。自分も子どもの頃、稲刈りや脱穀などの手伝いをしたことや、正月にはお餅をついて、地域の皆さんに配ったことを覚えています。今でも昔からの知り合いでもある地域の方々の相談に乗ったり、昔の話をしたりしています。今までの地でやってこられたのは、地域の皆さんのおかげだと思っています。これからも地元のために尽力していきます。

本業及びその他の活動を通じ、環境保全や地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業として認められ、横浜市から「横浜型地域貢献企業」に認定されました。



5代目 代表取締役 長野 真行さん



古い測量機

昭和2年(1927年) 高嶋橋の架け替え工事
横浜新道の建設(昭和30年代)なども…

経師・表装 なかむら 戸塚町 16-19

創業 明治時代

明治時代に曾祖父が中区羽衣町で始めて、祖父の代に戸塚区旭町に移転してきました。昔は車が普及していなかったため、大きな襖や障子を運ぶのに苦労していたようです。祖父は大船まで襖4枚くらいなら担いで届けていたようですが、風を受けると、まるで大きな凧を担いでいるようだと言っていました。父の代になってやっと自転車にリヤカーをつけて使うようになりました。昔、このあたりは割烹旅館が多く、店の隣も「魚富」という旅館でした。戸塚で相撲の巡業が行われたりして、そんなときは、若い力士が旅館に出入りしていました。

【思い出のシーン…】

子どもの頃の思い出といえば、戸塚に映画館があって、よく映画好きの祖母に連れられて映画を見に行っていました。今と違って入替制ではないので、立ち見で、お菓子を食べながら手すりにもたれながら見ていました。2階には畳敷きの観客席もあったんですよ。そして、やはり柏尾川。夏は川に堰を作って、子どもたちが泳いだり、ウナギ、ドジョウも獲れたし、イナゴやバケツ一杯獲れたザリガニを食ったりもしていました。朝の柏尾川には、川の中が真っ赤に見えるほどザリガニがいたんです。戸塚は人口も増えて、大きな街になりました。昔から続けている夏のお祭りも、昔を知っている地域の人々が少なくなり、やりづらくなってきましたが、これからも続けていきたいと思っています。昔の生活は楽ではなかったかもしれませんが、子どもにとっても大人にとっても生き生きとした、豊かな時代だったと思います。

4代目 中村 直さん
交通指導員として地域で活躍中

昭和11年(1936年)頃

中屋菓子舗 戸塚町 6003-2 エトワール・リシェ1

創業 嘉永2年(1849年)

この店を継いだ時に、蔵にあった古いものはほとんど譲ってしまい、昔のことを知っている両親がもう世界に逝ってしまっているので詳しいことはわかりませんが、明治時代の免許鑑札の木札は今も大切にしています。

戸塚駅再開発の前は踏切のそばにお店があり、一日中踏切の音が聞こえていました。貨物列車が通るたびに家が揺れていたことも思い出します。

昔からの馴染みのお客様には再開発前の方が立ち寄りやすかったと言われますが、それでもわざわざ買いにきてくださり、ありがたく思っています。

藤沢に製餡所があって、代々伝わる秘伝の餡子を作っています。

昔に比べると少し甘さ控えめにしていますが、ご高齢の方々にも好評です。

また、昔ながらのお菓子をアレンジして作ったイチゴを使った和菓子は若年層に人気です。

そのほか、蒸かしすぎた和菓子を敢えて「訳あり」と表示して店頭に出してみたところ、味は変わらないので中々の人気になりました。

これからも代々伝わる味を守りながら、次の代の息子とともに、新しい和菓子にチャレンジしていきます。



免許鑑札(明治時代)



7代目 星野 すなおさん



林屋三枝木商店 平戸町 6001-5

創業 明治45年(1912年)

「林屋」として明治45年(1912年)に創業、昭和42年(1967年)に「はやしや酒店」を「株式会社林屋三枝木商店」へと変えました。屋号は初代の「林之助」の一字をとって「はやしや」と名付けました。一時期はコンビニエンスストアを運営するなど、時代に合わせて業務形態を変えてきました。今は店舗を持たず、飲食店への配達のみを行っています。時代に合わせて形を変えることで今まで続けていくことができました。

昔は樽からお酒を量り売りしていました。配達は今のような一升瓶ではなく、「はやしや」の名前が入った白鳥徳利(首の長い大きめの徳利)が使われ、リヤカーに積んで届けていました。近所の古い家からは、今もこの名前入りの徳利が出て来ることもあるといいます。

樽酒は保存状態によって味が微妙に変わり、時間がたつと樽が酒を吸ってしまいます。水で調整しながら店独自の味をうまく引き出すのが酒屋の腕の見せ所でもありました。

[地域のために…]

地域では平戸地区連合町内会会長、戸塚区保護司会理事、民生委員・児童委員など数々の地域活動に参加し、長年の消防団での活動に対し、平成7年には、国から勲六等単光旭日章(現在の旭日単光章)を受章しました。

こうした活動は町や地域への恩返しだと思っています。



勲六等単光旭日章受章祝賀会



三枝木 鉄朗さん 三枝木 林治さん



昭和30年(1950年)頃の店舗

松本屋 戸塚町 16-1 トツカーナモール1階

創業 慶長9年(1604年)

元々は、元町の東峰八幡宮の山を越えて下った辺りに住んでいましたが、慶長9年(1604年)、東海道戸塚宿が設けられた際に、幕府の命により相澤衛門が戸塚宿の間屋役となり、戸塚駅近くに「旅籠 松本」を創業したのが始まりです。旅籠を営んでいたころは、道中病気などで、不幸にも命を無くした旅人もいたそうで、相澤家の墓地には今でもいくつかの無縁仏の石碑が立っています。その後、醤油製造業や酒類販売業も営んでいましたが、関東大震災で家屋が全壊してしまい、その後は酒類販売に専念するようになりました。「松本」の屋号は、移転する前の家の前に大きな松の木がたくさんあり、「その松の木のもとから来た」から「松本屋」になったとか。

[思い出のシーン…]

店の前が箱根駅伝の中継所になっていました。(昭和30年(1955年)からコースが変わりましたが)不動坂交差点を左に曲がり、国道1号線を行くと「戸塚大踏切」を渡らなければなりません。当時の踏切は鉄道(国鉄)の職員が手で踏切を開け閉めしていたので、ランナーが走ってくると、遮断機が下り始めていても電車が来ていなければランナーをくぐらせて通っていたんですよ。



出典:「戸塚はこんな街でした」田谷そよ 昭和45年(1970年)



22代目店主 相澤 富男さん
区の交通安全協会の支部長を務めたこともあり、今でもまだまだ区の交通安全のために尽力されています



大正時代

南理容館 吉田町 3003-1 el sur101

創業 昭和2年(1927年)

昭和2年(1927年)に祖父が近所で床屋の営業を始めました。昭和8年(1933年)にこの場所(旧大踏切脇)に移ってきました。小さいころから踏切の音と戸塚の街のにぎやかな雰囲気の中で育ちました。昔は店の前がバスターミナルだったので、通りがかりに来る方が多かったです。

平成21年(2009年)に区画整理があり、5年半ほどここから少し離れたところの仮店舗で営業していたときは、踏切の音が聞こえなくなって、寂しく感じたりもしましたが、仮店舗の場所がバス通りに面していて目立つ場所にあったので、新しいお客様や、懐かしんで来店されるお客様がたくさん来てくださるようになりました。平成27年(2015年)に現在の場所に戻り、その頃のお客様が今でも来てくださいます。

一昨年創業90周年を迎えました。

現在の新しい現代風の店舗になって、「入りやすい雰囲気になった」とお客様も増えてきましたが、「『昔の床屋さん』という雰囲気の頃の方がよかった!」と言う昔からのお客様もいらっしゃいます。

時代の移り変わりとともに、理容の技術も求められるものも変わってきましたが、昔からの心意気は忘れずに、次に引き継ぐ息子にも伝えながら、創業100年に向けて、これからも続けていきたいと思っています。



3代目 中込 智恵さん
(左:中込 隼さん 右:中込 浩さん)



旧南理容館(昭和初期)



解体前(平成27年(2015年))

有限会社 山形屋洋品店 矢部町 76

創業 明治11年(1878年)

足袋の職人であった祖父が仕立て屋として創業したのが明治11年(1878年)。職人の作業着であった、屋号などを染めつけた裨纏^{はんでん}の仕立てをしていました。ここ戸塚の宿場町で、米こうじを使った甘酒、みそを作って売っていた本家と並んで仕立て屋を営んでいました。仕立てを独学で学んだ祖母や母は大変苦労したようです。ミシンの前を離れなかった母の姿を思い出します。

その後、裨纏だけでなく手袋や足袋も扱うようになりました。日立の工場が作った製品を納品するときに、製品に指紋がつかないように使用する手袋の注文がとて多かったことも思い出します。

子どもの頃は、近くの戸塚競馬場へよく遊びに行きました。いつも見ていたので、騎手の勝負服の色で勝負負けがわかるようになりましたが、そこにいる馬は全部軍馬で、馬場にある1本の松の木を敵に見立てて訓練していたことを覚えています。

今はお祭り用の裨纏を専門に扱っています。お祭り用品の専門店は少ないので、市外からもお客様が来ます。裨纏の仕立てなどは、とにかく経験と技術が必要です。昔からの技術を引き継ぎながら、新しいことも取り入れていかなければならないと思っています。そのために常に視野を広く、アンテナを張ることが大切だと思っています。



4代目 伴 博之さん 3代目 伴 忠男さん



山口木材株式会社 戸塚町 4532-3

創業 明治17年(1884年)

創業者である曾祖父が矢沢で木材商を始めました。矢沢一帯の山から木を切り出して、木材として売っていました。大正11年(1922年)に駅のそばの吉田町に移転してきました。駅に近かったので、輸送に便利ということで、近くには木材屋が多かったです。店の前が箱根駅伝の中継所になっていて、東洋大学の選手のお世話をしたこともあったそうです。関東大震災のあとは、周辺の多くの家々が倒壊してしまい、地域の家の建て直しなどにも多く関わりました。昔は、周辺のお店や住んでいる方々とのつながりが深く、老舗の「松本屋」さんの新築工事も請け負いました。駅前再開発によって、吉田町から今の場所に移り、昔ほどではありませんが、今でも深いつながりが残っているところもあり、このつながりは大切にしていきたいと思っています。

【秀利さんの母 道子さんのお話】

矢沢の山で営んでいる頃は、裏山の作業所で餅つきの日を作っていたことや、賃挽き屋という男の人たちが山に上がってきて、大きな木材を運んでいたことを覚えています。昔は人力に頼ることが多くて、皆さんとても大変そうでした。女学校の頃は、戸塚駅を毎日利用していたので、駅員さんと顔なじみになったりと、のどかな昔を懐かしく思い出します。戸塚で遊ぶところがなかったので、競馬場に行っていたこともあり。吉田町に移ってからのお店では、焼き物(陶器)も売っていました。お店がバスセンターの前にあったので、駅を利用するお客さんがよく訪れてくれました。そのうち、お馴染みのお客さんも増えて、お茶を飲みに来たり、地域の社交場になりました。



4代目 代表取締役 山口 秀利さん
昔の店舗の柱を移築してあります(横の柱)



昭和30年代(1955~1964年)

吉田屋 戸塚町 3960

創業 大正3年(1914年)

創業以来、途中间東大震災などの被害を受けたりもしましたが、ずっとこの場所です。再開発前は目の前にバスセンターがあったので、通りすがりの人がよく立ち寄って来ました。

昔は四季の行事や冠婚葬祭などの贈答品に多く和菓子が用いられていました。お祝い事には紅白まんじゅうとか、赤ちゃんに背負わせる「一升餅」など、個々の家での行事も多く、小学校から大量に紅白まんじゅうなどの注文を受けると、お店の中ははてさてご舞いでした。今ではコンビニエンスストアでも気軽に買えるようになったので、昔ながらの慣習が薄れてきてしまいましたね。茶道のお菓子としての需要も減ってしまいました。

それでも最近、和菓子は小豆と砂糖だけで出来ているので、体に優しいことが浸透してきて、ツイッターなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を通して一つ一つ手作りの季節の和菓子を求める若年層のお客さんも増えてきました。今の人は昔のように慣例に従って食べるのではなく、食べたい時に食べるようになったのですね。時代の流れで、生活環境が変わっていくのは仕方がないのですが、日本独自の和菓子の文化をこれからも大切にしていきたいです。そのためにはSNSなども大いに利用していきたいです。



左から吉田 俊子さん 小山 和子さん
菅沼 正子さん 吉田 洋子さん



昭和初期



吉田屋の「お菓子なとつかとうふ」は「おいしいもの とつかブランド」に認定されています

理容室ミズノ 戸塚町 3981-12 Mフラット

創業 明治45年(1912年)

明治時代に夫の祖父が創業しました。3代目だった夫が30代の若さで亡くなってしまい、以後自分が4代目として引き継いでいます。再開発前はバスセンターの横にお店がありました。鏡の中にバスセンターの車や人々の行き来が映りこんで、お客様は座っている間中、退屈することはなかったようです。

昔は地域のつながりが深く、一緒に住んでいた96歳の母が街を歩くと、地域の皆さんが気にかけてくれて、何かあるとすぐに知らせにきてくれたりと、高齢者などを地域で見守っていました。最近はそのような関係が薄くなってしまったことが寂しいですが、今はここが理容室としての機能だけでなく、来てくださったお客様(特に高齢者の皆さん)が気軽に話ができる場、「地域の憩いの場」としての役割も担っているかな、と思っています。



出典:「戸塚はこんな街でした」田谷そよ

この絵の作者、田谷そよさんに絵を習っていました。駅前にあったお店の前を日々通りかかっていた田谷先生に声をかけられたことがきっかけです。



4代目 水野 ひろみさん



昔からの家具を今も大切に使っています

第2部 つながる笑顔 ～とつかの笑顔大集合！～

「こころ豊か」「つながる笑顔」をテーマに、区民の皆さんから笑顔の写真を募集しました。素敵な笑顔がたくさん寄せられました。





第3部

未来に向けて進もう！みんなのこれから
～こどもメッセージ&フォトモザイクアート～



子どもたちに「自分が大人になった時に『とつか』がこんなまちになるといいな」をテーマにメッセージやイラストで表現してもらいました。



あなたが大人になった時、
とつかがどんなまちになっていたらいいと思いますか？



戸塚区制80周年記念
“つながる笑顔” こどもメッセージ&フォトモザイクアート

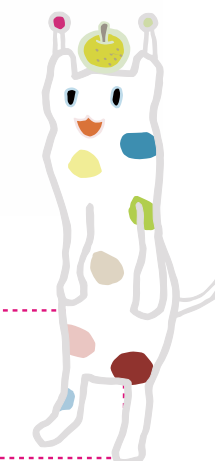
子どもたちのメッセージと笑顔の写真を組み合わせ、
たくさんの想いがつまった区制80周年ウナシーイラストを作りました！



画像はホームページでご覧になれます。(掲載は2020年3月まで)

戸塚区フォトモザイクアート

検索



第4部

年表・名簿・取組

戸塚区略年表

- 昭和14年(1939年) 鎌倉郡内の1町7か村が横浜市に合併し「戸塚区」が誕生
- 昭和27年(1952年) 柏尾川で桜植樹始まる(ソメイヨシノの苗木2,000本)
- 昭和30年(1955年) 「ワンマン道路」が開通(国道1号 不動坂～大坂上)
- 昭和34年(1959年) 横浜新道開通(保土ヶ谷～上矢部町)
- 昭和39年(1964年) 横浜ドリームランド開園(俣野町)
- 昭和44年(1969年) 戸塚区から瀬谷区が分区 区制30周年
- 昭和52年(1977年) 第1回区民まつり開催
- 昭和53年(1978年) 戸塚センター(図書館、地区センター、公会堂)がオープン
- 昭和55年(1980年) 東戸塚駅が開業
- 昭和59年(1984年) 戸塚スポーツセンター開館(上倉田町)
- 昭和60年(1985年) 地下鉄舞岡駅が開業
- 昭和61年(1986年) 戸塚区から栄区・泉区が分区
- 昭和62年(1987年) 地下鉄戸塚駅が開業
- 昭和63年(1988年) 横浜女性フォーラム開館(上倉田町)(現男女共同参画センター横浜)
戸塚のシンボルマーク制定
- 平成元年(1989年) 区制50周年
- 平成5年(1993年) 区内初 上矢部地域ケアプラザ開館(上矢部町)
- 平成8年(1996年) 舞岡公園全面開園(舞岡町)
- 平成11年(1999年) 区制60周年 区の花が「桜」に決定
地下鉄踊場駅開業(戸塚駅～湘南台駅開通)
- 平成14年(2002年) 横浜ドリームランド閉園(俣野町)

- 平成20年(2008年) 俣野公園全面開園(俣野町 ドリームランド跡地)
- 平成21年(2009年) 「とつか区民活動センター」と
戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」オープン(川上町)
戸塚区制70周年 戸塚区のマスコット「ウナシー」誕生
- 平成22年(2010年) 第一交通広場(戸塚西口バスセンター)オープン
原宿交差点の立体化工事完成
- 平成25年(2013年) 区役所・戸塚区民文化センター「さくらプラザ」が完成
- 平成26年(2014年) 戸塚大踏切デッキの一般供用開始
- 平成27年(2015年) 戸塚アンダーパス開通 戸塚大踏切閉鎖
- 平成31年(2019年) 区制80周年



東戸塚駅建設



地下鉄戸塚駅開業



アンダーパス開通



戸塚区のシンボルマーク



戸塚区の花「桜」デザインマーク



戸塚区のマスコット「ウナシー」

戸塚区制 80 周年記念事業実行委員会名簿 (敬称略)

(平成31年(2019年)1月時点)

団体及び役職名

戸塚第一地区連合町内会会長
 戸塚第二地区連合町内会会長
 戸塚第三地区連合町内会会長
 踊場地区連合町内会会長
 北汲沢連合町内会会長
 舞岡地区連合会会長
 川上地区連合町内会会長
 柏尾地区連合町内会会長
 東戸塚地区連合町内会会長
 平戸地区連合町内会会長
 平戸平和台地区連合町内会会長
 上矢部連合町内会会長
 名瀬連合町内会会長
 大正連合町内会自治会会長
 汲沢地区連合町内会会長
 上倉田地区連合会会長
 下倉田地区連合会会長
 吉田矢部地区連合会会長
 戸塚消防団団長
 戸塚火災予防協会会長
 戸塚観光協会会長
 戸塚区社会福祉協議会会長
 戸塚区民生委員児童委員協議会副会長
 戸塚区女性部連絡会会長
 戸塚交通安全協会会長

氏名

小林 徹
 高橋 武久
 中野 幸吉
 菊池 賢児
 加藤 邦雄
 杉本 功
 田中 猛
 齋藤 純一
 常盤 欣二
 相澤 辰信
 伊東 春雄
 相澤 稔
 新井 敏行
 福井 和巳
 石井 利明
 田中 光夫
 吉原 鋭一
 川畑 孝男
 川邊 聡
 奥秋 和彦
 黒田 憲一
 有賀 美代
 上田 桂子
 齋藤 徳子
 川邊 重男

団体及び役職名

戸塚区老人クラブ連合会会長
 戸塚区体育協会会長
 戸塚区商店街連合会会長
 戸塚法人会戸塚西連合会長
 戸塚区スポーツ推進委員連絡協議会会長
 戸塚区青少年指導員協議会会長
 戸塚区子ども会連絡協議会会長
 戸塚文化協会会長
 ふれあい青空市実行委員会委員長
 戸塚区医師会会長
 戸塚歯科医師会
 戸塚区薬剤師会会長
 戸塚区獣医師会会長
 戸塚区食品衛生協会会長
 戸塚区生活衛生協議会会長
 戸塚区保健活動推進員会会長
 戸塚区食生活等改善推進員会会長
 戸塚泉栄工業会会長
 横浜商工会議所戸塚支部支部長
 東日本旅客鉄道株式会社 戸塚駅駅長
 日本郵便株式会社 戸塚郵便局局長
 交通局高速鉄道本部駅務管理所戸塚管区駅長
 水道局戸塚水道事務所長
 東戸塚小学校校長
 平戸中学校校長

氏名

新出 直美
 松田 良昭
 三枝木 鉄朗
 重岡 洋子
 栗田 優
 藁科 文男
 渡辺 利通
 西川 久生
 石川 昭子
 紺野 勉
 武居 純
 石渡 章文
 杉山 智香
 平田 榮司
 安井 栄
 堀内 潔
 鳥巢 路子
 黒田 憲一
 星野 匡
 菅井 知己
 宮崎 登
 芝田 光浩
 二見 友久
 南部 礼子
 田中 光一

戸塚区制80周年記念事業にご協賛いただいた皆さま (敬称略)

オセアングループ **大洋建設株式会社** ~栄光の未来を築く~

株式会社 **長野工務店**

野村證券

株式会社 **長野工務店**

中外製薬

株式会社 **MITSUBA ミツバ**

株式会社 **小雀建設**

株式会社 **三菱**

株式会社 **三寶精機工業**

株式会社 **紡永工業**

株式会社 **横浜リテラ**

株式会社 **Ko-wa construction**

株式会社 **幸和建設工業**

株式会社 **トツカーナ**

株式会社 **キシマ**

株式会社 **トツカーナ**

株式会社 **トクユ**

株式会社 **日本貿易印刷**

株式会社 **ポーラ化成工業**

株式会社 **横浜薬科大学**

株式会社 **信友建設**

株式会社 **明治学院大学**

株式会社 **山口ホーム**

安全輸送株式会社	株式会社アイネット	日本自働精機株式会社
サクラス戸塚	株式会社昭和工業	戸塚歯科医師会
戸塚区薬剤師会	一般社団法人戸塚区医師会	かもめプロペラ株式会社
山崎製パン株式会社 横浜第一工場	株式会社金子工業所	医療法人横浜柏堤会 戸塚共立第1病院
戸塚泉栄工業会	株式会社ショウワ	一般社団法人 LTRコンサルティングパートナーズ
イオンリテールストア株式会社 イオン東戸塚店	林精鋼株式会社 戸塚工場	公益社団法人戸塚法人会
横浜印刷工業団地協同組合	株式会社岡田建設	医療法人佐々木歯科医院
戸塚観光協会	株式会社紀文食品 横浜工場	株式会社きたむら園
戸塚区生活衛生協議会	生駒造園土木株式会社	静岡銀行 戸塚支店
六国建設株式会社	森紙業株式会社 関東事業所	湘南信用金庫 戸塚支店
戸塚交通安全母の会連合会	戸塚交通安全協会	国際鉄工株式会社
戸塚防犯協会	神奈川中央交通株式会社	第一コンクリート株式会社 横浜工場
上倉田地区連合会	戸塚区女性部連絡会	戸塚区体育協会
東日本旅客鉄道株式会社 戸塚駅	有限会社小川製作所	戸塚区商店街連合会
文明堂製菓株式会社	株式会社大倉陶園	横浜信用金庫 戸塚東口支店
株式会社タウテック	横浜信用金庫 戸塚支店	株式会社林屋三枝木商店
コーケンフード&フレーバー株式会社	戸塚区老人クラブ連合会	戸塚工業団地協同組合
有限会社黄河	日本郵便株式会社 戸塚郵便局	戸塚区獣医師会
戸塚区食生活等改善推進委員会 (ヘルスマイト)	戸塚区食品衛生協会	

個人協賛

相澤 辰信 高橋 将司 長嶋 健志 長野 真行 小澤 真一
橋本 美智子 鈴木 裕子 田中 均 京増 高志

ご協賛、誠にありがとうございます。

戸塚区制80周年を記念して色々な取組を行いました!

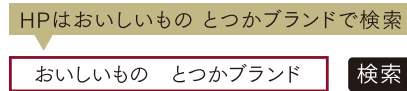
「おいしいもの とつかブランド」認定品を追加

家族や友人と一緒に食事に行ったり、お土産にしたり、思わず誰かにおすすめしたくなる「おいしいもの とつかブランド」。区制80周年を記念して認定品の追加募集を行い、区民の皆様から多くの推薦を集めた15品を新たに認定しました。

また今回は、戸塚区内にキャンパスのある大学(湘南医療大学、明治学院大学、横浜薬科大学)の学生に推薦していただいた5品も新たに「大学生おすすめ おいしいもの とつかブランド」として認定されています。ぜひ、戸塚区自慢の「おいしいもの」をお楽しみください。

【おいしいもの とつかブランド募集概要】

募集期間:平成30年(2018年)8月6日(月)~10月21日(日)
 推薦対象:区内で販売(店内での飲食を含む)されている飲食物
 推薦資格:区内在住、在勤、在学
 推薦数:2,120件
 推薦店舗数:300店舗以上



音楽と写真で懐かしい戸塚を振り返る! 「戸塚区制80周年記念PR動画」

戸塚区ゆかりのアーティストHAMMER氏総合プロデュースによるノスタルジックなオリジナル音楽&映像で、昔懐かしい戸塚を振り返ります。

動画はYouTubeでご覧いただけます!



来て・見て・撮って / 戸塚の魅力を感じる80周年PRキャラバン

特別パネル巡回展示

「フォトモザイクアート」(47ページで紹介)、「フォトスポットパネル」、「戸塚昔の写真パネル」が区内各所を巡回しました。(平成31年(2019年)1月~)



横断幕・のぼり旗の掲出

戸塚駅・東戸塚駅周辺に横断幕を、区内各所にのぼり旗を掲出し、区民の皆さんをはじめ、戸塚を訪れる多くの人にお祝いの年を迎えることをPRしました。



戸塚区で歴史を刻む周年コラボ企画 大倉陶園記念ティーカップ完成

創業100周年を迎える株式会社大倉陶園(本社 秋葉町)が戸塚区とのお互いの周年を記念し、戸塚を流れる柏尾川に咲く「ミズキンバイ」を描いた記念ティーカップをご制作くださいました。

都市河川では唯一、柏尾川にだけ咲くミズキンバイ。これまでの歴史と、未来への希望を、一日花が命をつなぎ、みなもに咲く姿に重ねて表現しています。



思わず目を留めてしまうフォトジェニックな戸塚の魅力が満載! 戸塚区制80周年記念フレーム切手を作成しました

80周年を記念して、戸塚区制80周年記念事業実行委員会と日本郵便株式会社が共同でオリジナルフレーム切手を作成しました。戸塚区の歴史や魅力を感じる風景等の写真が満載! 戸塚区内郵便局で販売しました。(平成31年(2019年)1月~)

- ・1シート(82円切手×10枚) 1,300円(税込)
- ・販売部数 1,000部



箱根駅伝で応援・PR

戸塚区ならではのPRとして、箱根駅伝往路2区の沿道でオリジナル応援・PRグッズ(マフラータオル)を作成し、選手を応援するとともに全国に向けて区制80周年のPRを行いました。



PRグッズ



シール
保育園、幼稚園、小学校に広く配布



缶バッチ
子ども向けのイベントを中心に配布

うちわ
地域や区内公共施設で配布

戸塚区制80周年記念誌

こころ豊かに つながる笑顔
歴史と未来のまち とつか

発行 平成31年(2019年)3月
戸塚区制80周年記念事業実行委員会

事務局 戸塚区役所区政推進課
〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17
電話 045-866-8321
FAX 045-862-3054

デザイン 株式会社横浜リテラ
印刷 株式会社大川印刷

Look! 80周年カウントダウン

広報よこま戸塚区版で
80周年に向けて毎月カウントダウンをしました



平成31年
(2019年)
1月号

3月号